

世界に羽ばたけ、温泉津の砂！

～日本シリカ工業株式会社～



三子山(みつこやま)鉱山(温泉津町湯里)

“NSG”は世界一のシェアを誇る大手のガラスメーカー、日本板硝子(株) (Nippon Sheet Glass) の略名です。温泉津の砂は温泉津港から船で日本板硝子(株)舞鶴工場に出荷されてガラスになります。車のほか、皆さんがご持ちの携帯電話の液晶ディスプレイにも、温泉津の砂から製造されている物があります。今回は温泉津の珪砂(けいしゃ)について紹介します。

日本屈指の温泉津珪砂

ガラスの原料である珪砂の日本屈指の産地が温泉津町であることはあまり知られていません。

温泉津 鉱山 から産出される珪砂は、石英(二酸化珪素(SiO₂))の含有量、品質の安定性、その埋蔵量ともに日本でもトップクラスです。昭和30年代

皆さんの車の窓ガラスを見てください。“NSG”という白いプリントがあれば、そのガラスは100%温泉津の砂からできています。現在、国産車の5台に1台の割合で、温泉津の砂からできたウィンドウガラスが使われていることをご存知ですか？

温泉津ガラス

続けています。ガラス大国日本の一翼を担う温泉津の珪砂。今日も温泉津のガラスをのせた車が世界中を駆け巡っています。

中頃よりガラス瓶の原料として採掘されるようになった温泉津珪砂は、40年代中頃に新しい精製方法が導入されたことにより、板ガラス原料用としても使用されるようになりました。

日本シリカ工業(株)

温泉津にある「日本シリカ工業(株)」は日本板硝子(株)等が出資して設立された工場場で珪砂の精製・ブレンドを行っています。

昭和60年代、安価な外国産珪砂の輸入により、多くの国内珪砂工場が統廃合されましたが、同社は試行錯誤の末、コストダウンに成功。近年では、逆に輸入珪砂の高騰により国内産の温泉津珪砂の需要が高まったこともあり今日まで営業を

今、ひそかな人気を集めているのが、日本シリカ工業(株)が小さなガラス工房と一緒に作ったガラス製品「温泉津ガラス」です。温泉津珪砂のPR用に作成したものを大阪市人会(当時は温泉津町人会)の会で展示したところ好評で、会場となった居酒屋や評判を聞いた他の居酒屋でも使用されるようになりました。現在、温泉津ふれあい館や県内数箇所販売されています。

温泉津珪砂には鉄分が多少含まれているため、色ガラスを中心に作られています。少し曇った風合いが独特の趣を醸し出しています。

製品デザインや柔らかな口当たりを大切に、すべ



て手作りで作られています。まとまった注文があれば、オリジナルガラス食器などを製作することも可能です。この夏は、車のウィンドウガラスの向こうに映るふるさとに想いを馳せるのもよし、自分で描いたデザインオリジナルグラスで喉を潤すもよし……。

【問い合わせ】
大田市産業振興企画室
TEL 0854-82-1600
日本シリカ工業(株)
TEL 0855-65-2822



本誌創刊号「ふるさとは今」に掲載されたヨズクハテの写真

「ふるさとは今」のいま

「ヨズクの里で酒米の田植え」創刊号の「ふるさとは今」で紹介した温泉津町西田の「ヨズクの里」で幻の酒米の田植えが行われました。

5月13日、幻の酒米「亀の尾」を栽培して自分たちの酒を造り、会員同士が交流を深めている「酒仙蔵人・五郎之会」(代表世話人 若林邦宏さん)の田植えが、温泉津町湯里の西田地区・ヨズクの里で行われました。今年で9回目となる田植えイベントには、広島や県内の会員34人と、地元ヨズクハテ保存会や集落の皆さんら総勢約60人が参加しました。

当日は、小雨の中、近くの水上神社で豊作祈願をした後、約10アールの水田に入り約1時間かけて田植えを行いました。その後、参加者全員で秋の実りに思いを馳せながら昼食交流会を開催しました。

秋の稲刈りでは、およそ10基のヨズクハテと一緒に組む予定です。



田植えをする会員と地元の皆さん

随時会員募集中!!
【問い合わせ】
事務局 若林酒造(有) TEL0855-65-2007